

カヌーの死亡・行方不明事故が4件発生！

昨年末から年始にかけて、カヌーの死亡・行方不明事故が4件(4隻、各1名乗艇)発生しています。このうち、3隻がシットオンタイプのカヤックであり、乗船者2名が死亡、2名が行方不明となっています。また、死亡した2名のうち1名はスパッツとショートパンツの軽装、行方不明者2名のうち1名はライフジャケット未着用で活動しており、共通して低体温症が影響しているものと推定されます。

◇体温の保持が重要！

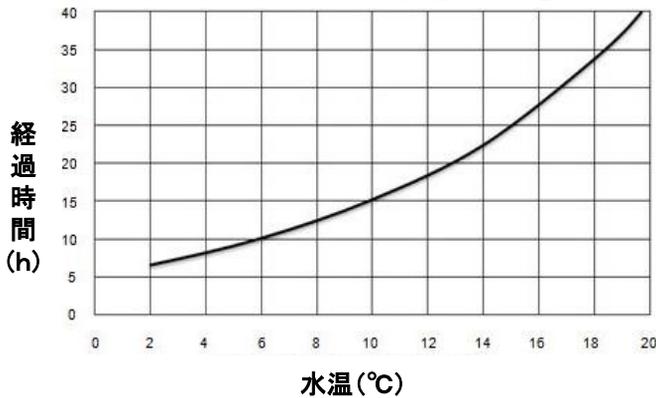
シットオンカヤックからの再乗艇は、他のカヤックと比べて高さもあるため、慣れていないと時間が掛かり、体力を消耗します。特に冬期に軽装で活動すると低体温症を発症するリスクが高くなります。

水の熱伝導率は空気に比べて約25倍にもなるため、水温が体温へ及ぼす影響は非常に大きく、海に体が浸かって体温約35度以下になると低体温症に至り、約32度以下で体温調節機能が失われ、更に体温低下が一層高まり非常に危険な状態となります。

低体温症を発症すると、意識消失の前にシバリング(震え)やチアノーゼ、各種身体的不調(思考力・判断力の低下)といった兆候が見受けられ、最終的には溺水等に至ります。

(※衣服着用者の海中における生存時間、海水温度と意識不明に至る時間及び予想生存時間は以下の通り)

【通常の衣服を着ている者の海中における生存時間の現実的な上限を示す図】



【海水温度と意識不明、生存時間との関係】

海水温度	意識不明に至る時間	予想生存時間
0度以下	15分以内	15~45分間
0~5度	15~30分	30~90分間
5~10度	30~60分	1~3時間
10~15度	1~2時間	1~6時間
15~20度	2~7時間	2~40時間
20~25度	2~12時間	3時間以上

【出典：国際航空海上捜索救助マニュアル】

【出典：船員の低体温症対策ガイドブック(資料提供：東京海洋大学大学院 海洋スポーツ健康科学研究室)】

◇低体温症を発症しないためにも以下の点に注意しましょう！

○天気が悪いときは出港しない！

カヌーは、波や風の影響を受けやすく、荒天だと転覆するリスクが高くなり、乗船者が海中転落することがあります。

最新の気象情報を入手して、**荒天が予想される場合は出港を控えましょう！**

○単独行動は避ける！

仲間の艇が近くにいると早期発見に繋がり、一人で再乗艇できない場合もグループレスキュー等で早期に救助できることがあります。**単独行動は控えましょう！**

○ライフジャケットの着用と適切な服装を選択！

ライフジャケットの着用と保温性の高い服装を選択することは、体温の保持に有効なものとなります。**ライフジャケットを着用し、活動内容に応じた服装を選択しましょう！**



カヌーに関する情報

カヌーの安全運航に関する情報は、右側の二次元コードをご覧ください。



【URL】<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/canoe/index.html>

カヌーで海に出る前に確認する情報

カヌーで海に出る前に確認する情報は、右側の二次元コードをご覧ください。



【URL】<https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/data/sittehosiiikoto-kanu-ninorumae.pdf>



第七管区海上保安本部 TEL 093-331-6395